

令和 6 年度 北河内薬事懇話会 議事概要

日時：令和 7 年 1 月 24 日（金）午後 2 時～ 4 時

場所：寝屋川市保健所 2 階講堂

1 開会

2 議題

(1) 災害時の医薬品等の確保体制の整備状況について

ア 災害時の医薬品等の確保体制の整備状況について〔資料 1〕

大阪府薬務課より説明

災害時の医薬品調達・供給体制の整備状況と、その仕組みについて説明があり、災害発生時の医薬品の供給体制について、説明があった。

発災直後には、備蓄協定や協力体制の重要性があげられた。

イ 災害時における薬剤師の役割〔資料 2〕

関西医科大学附属病院薬剤部より説明

災害拠点病院における薬剤師の役割について、現状と課題が共有された。

災害時の医薬品供給体制や調剤業務の重要性が説明され、地域薬剤師との連携強化が必要であること、薬剤師は災害発生直後から活躍する重要な立場にあることが再確認された。

(ｱ) 主な質問・意見等

・災害時の処方管理とアナログ手段の重要性

発災直後は、停電などで電子処方箋やデジタルシステムが使えなくなる可能性があるため、普段からお薬手帳を利用することが災害時にも役立つので必要とされた。

・薬剤の備蓄と供給体制について

薬剤の確保が難しい現状を踏まえ、災害時の備蓄に関しては、ローリングストック方式や、薬局間での協力が災害時において重要だと指摘された。

ウ 災害時の医薬品等の確保体制の整備状況について〔資料 3〕

能登半島地震での日本薬剤師会（柴垣現地本部）の活動報告

阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震などで派遣された薬剤師の支援活動の実績が紹介された。

エ 能登半島地震での活動を踏まえて議題提起があり、次の３つの項目で意見交換された。

(ア) 意見交換 １：市との協定締結に関すること、マニュアルの作成状況、災害時の医薬品の備蓄状況とその把握方法

北河内地域の薬剤師会の多くが市との協定を締結済みであるが、一部では協定の見直しが必要となっている。行動マニュアルや医薬品の備蓄に関しては、品目の選定や管理場所など検討すべき事項があり、システム導入や連携強化を通じて、災害時の対応体制の強化が求められている。

(イ) 意見交換 ２：BCP の策定状況について

BCP を策定し、研修会も実施している。今後、各薬局間の協力を得る体制作りが必要。

(ウ) 意見交換 ３：薬剤師自身の災害時の役割・使命の認識を高める取り組みや研修について

薬剤師の災害時の役割を高めるため、各薬剤師会で災害対応の勉強会・システムを活用した情報共有の強化を行っている。また、今後、地域薬剤師会において、災害医療スキルアップセミナーや大阪府薬剤師会において南海トラフを想定した訓練の実施を予定しており、これらの取り組みを通じ、薬剤師の災害対応力向上を目指している。

(2) その他

ア 各地域薬剤師会の取組み〔資料４－１〕資料配布

イ 認定薬局について〔資料５〕資料配布

ウ その他意見発言

能登半島地震での派遣経験より、被災地の実状を知る地域の医療団体との連携強化が必要との要望があった。

3 閉会